

---

第7回 大 山 町 議 会 定 例 会 会 議 録 （第4日）

令和7年9月18日（木曜日）

---

議事日程

令和7年9月18日 午前9時30分開議

1. 開議宣告

日程第1 一般質問

通 告 順	議 席 番 号	氏 名	質 問 事 項
12	1	浅田 龍太郎	1. 大山寺に天然芝グラウンドを2面作らないか 2. 人口減少対策としての道の整備を
13	14	近藤 大介	1. 大山小学校区の人口減少対策について 2. 空き家の利活用について

---

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

---

出席議員（16名）

1 番 浅 田 龍太郎	2 番 小 林 直 哉
3 番 近 藤 隆 博	4 番 京 力 久 子
5 番 西 本 憲 人	6 番 豊 哲 也
7 番 島 田 一 恵	8 番 加 藤 紀 之
9 番 池 田 幸 恵	10 番 大 原 広 巳
11 番 米 本 隆 記	12 番 大 森 正 治
13 番 杉 谷 洋 一	14 番 近 藤 大 介
15 番 野 口 俊 明	16 番 吉 原 美智恵

---

欠席議員（なし）

---

欠 員（なし）

---

事務局出席職員職氏名

局長 ..... 野 間 光 書記 ..... 林 原 彰 吾

---

説明のため出席した者の職氏名

町長	竹 口 大 紀	教育長	鷺 見 寛 幸
副町長	吉 尾 啓 介	教育次長	浦 木 美 穂
総務課長	金 田 茂 之	地方創生監	山 根 篤 大
財務課長	池 山 大 司	幼児・学校教育課長	井 上 龍
幼児・学校教育課参事	鷺 見 勇 樹	社会教育課長	西 尾 秀 道
商工観光課長	源 光 靖	まちづくり課長	深 田 智 子
建設課長	赤 川 佳 隆		

午前 9 時 3 0 分開議

○議長（吉原美智恵君） 皆さん、おはようございます。

ただいまの出席議員は 16 人です。定足数に達しておりますので、これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、配付のとおりであります。

日程第 1 一般質問

○議長（吉原美智恵君） 日程第 1、昨日に引き続き一般質問を行います。

通告順に発言を許します。

1 番、浅田龍太郎議員。

○議員（1 番 浅田龍太郎君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 浅田議員。

○議員（1 番 浅田龍太郎君） 1 番、浅田龍太郎です。まさかのトップバッターで、あまり狙わずに、最終日になると正直思ってなかったんですけども、しっかりと質疑させていただきたいと思います。

例によって、町民さんのほうからまた、もうちょいゆっくりしゃべってくれと相変わらず言われておりまして、今回もできるだけゆっくりしゃべっていきなうて思います。また、若いんだからもっと夢を語れと、夢を語って、ちょっと面白いことを言ってくれというふうに聞いておりますので、今回、夢のあるような話題を持ってこさせていただきます。

それでは、事前通告に従いまして、2 問、質問させていただきます。

大山寺への天然芝グラウンドを 2 面造らないか。

昨今の気温の上昇と、大山町内の運動設備の老朽化ですとか、破損とか、そういった問題がある中で、町民がスポーツに取り組むことができる環境を維持していくとともに、この人口減少の中で一番よい活用の方法というのを検討していく必要があるんじゃないかというふうに考えております。これに加えて、現存する山香荘、天然芝グラウンドの拡張及び天然芝グラウンド、2 面にしてくれという要望が鳥取県サッカー協会のほうか

らも出ていると思います。過去にもサッカー場の建設についての検討がされておりますが、当時とは環境が大きく変わっており、いま一度検討していただけないかということで、本日質問させていただきます。

今現在のスポーツ活動に伴う問題点として、気温上昇に伴う運動機会の減少、また、老朽化、破損した設備の更新。もしこのグラウンド2面造れたときに期待できる効果としては、数日間にわたってのスポーツ大会の開催ですとか、大学生の合宿所、またはプロチームの誘致、また、そういったことをできるようになってきますと、それに伴うサポーターですとか、世間の注目が集まることによる関係人口の増加というように効果が広がっていくのではないかなというふうに考えております。

実施に際しては、大山は国立公園でございますので、整備等にとっても厳しい規制がございますので、そういったところをどういうふうに考えていくのかですとか、また、ほか、グラウンドを運営されている方おられますので、そういったところとどう競合していくかというところが大きな問題になってくるかなというふうに考えております。

以上の点から、メリットのほうがあるんじゃないかということで、今回質問させていただきました。町長と教育長の考えを伺います。（「読まんといけん、全部」と呼ぶ者あり）

すみません、では、質問事項ですね、何点かさせていただきます。（発言する者あり）

○議長（吉原美智恵君） 読んでください。読まないと答えられません。

○議員（1番 浅田龍太郎君） 質問内容としましては、今、現状で、気温上昇に伴う避暑地の需要増加について、酷暑により、スポーツ大会、どんどんどんどん中止になっている状況でございますので、子供のスポーツをしたいという気持ちにどう応えていくのか、また、それをどう環境をつくっていくのか、町長の考えをお聞かせいただきたいのと、また、こういったスポーツ大会を開催することによる集客というのが期待できるかと思えます。今、大山スキー場のほうで、どうサマーシーズンに集客をしていくのかというところで、固定客がつかめるのではないかと思います、町長の今後の考えを伺いたいのと、また、3つ目ですね。キャンプ地として誘致することで、子供たちにとっても、やっぱりこれは貴重な経験になりますし、実際にプロが試合している、プロと触れ合うというところは教育の中でとても大きな意味を持つと思いますので、これについて教育長のほうにお聞かせいただきたいです。

また、4番目、山香荘の設備更新について、今、総務経済常任委員会のほうで検討はされてはいるんですけども、これが本当に、近いうちに実現できるのかどうか、予算的な規模もございますので、どう考えておられるのか、今後の展望についてお聞きしたいです。

また、宿泊と観光ですね。来てくれることを増やすってということがやっぱり関係人口の増加につながると思います。観光とスポーツの拠点を集約することで、さらなる相乗

効果が見込めるのかなというふうに考えておりますけれども、町長の考えをお聞きしたいです。お願いします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 皆さん、おはようございます。

今回、初めて一般質問3日間ということで、3日目ですが、よろしくお願いいたします。

それでは、浅田議員の一般質問、大山寺に天然芝グラウンドを2面造らないかという御質問で、5点いただいておりますので、順にお答えをいたします。

まず、1点目の気温上昇に伴う避暑地の需要増加のお尋ねですけれども、これは、御提案のとおり、夏場のスポーツ環境の安全考慮というのは非常に重要なポイントだというふうに考えておりまして、大山寺の標高は約800メートルありますので、平野部と比較して約5度ほど気温が低いというところでありまして、大山寺でそういったものを建設すれば優位性はあるのではないかというふうに考えております。

2点目のスポーツ大会開催における集客の期待といたしましては、現在、鳥取県サッカー協会から誘致可能と回答を得ている大会は5大会ございますので、参加選手は約240名で、スタッフやコーチ、保護者等を加えて、300名以上の集客が見込めると承知をしております。

そして、3点目のプロサッカーチームの誘致のお尋ねですけれども、現在、シーズンの変更に伴ってキャンプの時期が変更になるということで、今、キャンプ地をそれぞれが検討をされていると承知をしておりますけれども、来シーズンのキャンプとなりますと26年の6月ということで、もう1年もないところでありまして、今から、時間感覚としましては、ハード整備による誘致というのは実現が少し困難なのかなというふうに考えております。

4点目の山香荘の設備更新のお尋ねですけれども、山香荘、夕陽の丘の施設整備に関しましては、今後、地域経済の活性化に資するかなどいろいろな視点がありますので、そういった費用対効果などを見極めながら、必要に応じて行っていくというような考えであります。

最後、5点目の宿泊と観光についてのお尋ねですけれども、御指摘のとおり、スポーツなどを通じまして本町と交流をする人が関係人口の増加につながっていくものというふうに承知をしておりますので、アウトドアライフ構想におきましても、スポーツも一つの重要な要素として捉えております。したがって、大山町が有する体育施設等も生かしながら大山町をPRすることが必要ではないかなというふうに考えているところでございます。

以上で答弁いたします。

○教育長（鷲見 寛幸君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） 皆さん、おはようございます。

それでは、浅田議員からの一般質問にお答えいたします。

私からは、3点目のプロサッカーチームの誘致についてお答えいたします。熱中症対策の強化が求められている中でもあり、この対策強化や、また環境整備については大切なことだと認識しております。プロサッカーチームのキャンプ地の誘致などによりまして、プロスポーツが身近になるということは子供たちにとって貴重な体験になりますし、また、スポーツ振興にも大きく寄与するものというふうに考えております。

一方、既に山香荘などのサッカー場も整備をされておまして、修繕もさることながら、新たに建設するにはさらに費用もかかるということから、方向性については町長答弁と同じでございます。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（1番 浅田龍太郎君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 浅田議員。

○議員（1番 浅田龍太郎君） まず、最初になんですけども、今、環境、気温上昇がどれぐらい厳しいものなのかっていうのをちょっとまとめてまいりまして、昨今の気温上昇というのは、とっても、著しいレベルです。僕が高校、中学とずっとサッカーをしていたので、ちょっとサッカー中心の話になってしまうのは御了承願いたいんですけども、夏でも毎日のように試合ができて、米子市内いろいろなところに移動して試合ができていたんですけども、今そういった状況がなかなかできない、特に夏休みの期間ですね、全くできないような状況になってるというふうに聞いております。

初日、杉谷議員の一般質問においても熱中症の問題について答弁があったと思うんですけども、実際の熱中症患者等はいんまり出ていないんですね。というのも、日本スポーツ協会が熱中症の予防運動指針において、要は、そもそもが開催できないというような状況が今ございます。ですので、夏場、クラブチームですとか、学校等もそうなんですけれども、そういったところからなかなか試合ができない、運動する機会がそもそもないというのが問題としてあるかなというふうに考えております。

直近の、令和7年7月24日に、文部科学省のスポーツ審議会、健康スポーツ協会のスポーツ界における熱中症予防においてという検討がなされたときに、各部会から意見が出ておりますので、ちょっと紹介させていただきます。

まず、日本サッカー協会、こちら、今年度よりJFA主催、管轄する大会、リーグ、フェスティバル、こういったもの、7月、8月については原則開催しないと、全く行われないことになってしまう。原則なので、避暑地ですとか、そういったところがもし見つかって、固定的に開催できるのであれば可能なんですけれども、原則的にはもう開催できない。要は、スポーツの大会がないというふうに捉えてもらってもいいかなと思っております。また、全国高等学校体育連盟については、インターハイが夏ですとあるん

ですけれども、これ、今、遮熱対策、暑さ対策というのを一番に掲げて、要は、実行委員のほうでは動いておられます。このため、マックスで3時間、要は競技時間がずれたりですとか、いつもどおりに、いつもどおりの時間、いつも練習している時間、気温の中でなかなかできないというのがございます。また、日本中学校体育連盟については、夏季休業及び各大会における熱中症対策のお願いというのを一番に上げておられます。それほど、今、熱中症に対する世間の関心がとても強い中で、なかなかスポーツする機会というのが失われているのが現状です。

全体の課題といたしまして、先ほど何度も言わせてもらってるんですけれども、7月、8月の総合体育大会会場地、冷涼地というような言い方をされてましたけれども、冷涼地で固定開催するか、大会そのものの開催時期を変更するかというような議論まで上がっております。

今注目されてるこの暑さ指数、熱中症のために暑さ指数というものがあって、それを指標に皆さんスポーツをされるんですけれども、大山町においてどのように推移されているかというものをちょっと調べてまいりました。

これ、環境省の熱中症予防サイトで公開されてます令和7年6月から8月の、子供たちがスポーツするだろうと想定される時間帯である9時、12時、15時で6月から8月の暑さ指数、ちょっとまとめてまいりましたので、資料のほうを見ていただければと思います。（資料の提示あり）

ちょっとパネルで小さいんですけれども、こちら9時になります。9時の時点で、6月はまだ涼しいのでまだ可能なんですけれども、7月、8月、オレンジと灰色の線ですね。もう9時の時点でほぼ嚴重注意を超えていると。学校とかですと、その場に計測器があるというふうにお聞きしておりますので、その都度その都度で判断はできるんですけれども、例えば地域のスポーツチーム、クラブチームなんかがスポーツをするときに、こういった指標、こちら、環境省の熱中症予防サイトというところから情報を持ってきておるので、これを基本に皆さん判断をされるわけです。各天気予報等にもあるんですけれども、一番正しいところから一応数字を持ってきてグラフ化しております。9時の時点でかなり高い。赤い線になると、もう完全に中止のラインなんですね。これ、中止と嚴重注意、嚴重注意と言われておりますけれども、嚴重注意はもう激しい運動は中止なんですね。だから、激しい運動が中止、原則中止の間でずっと9時時点で推移しているような状況です。

実際の暑さ指数、どれぐらいなのかなということで、分かりやすくグラフにしてまいりました。先ほどお伝えしたとおり、ほとんどオレンジです。7月、8月、ほぼできません。試合会場に集まって、よし、やるぞ、だけど、嚴重注意だからちょっと遅らせよう、遅らせた場合にどうなっていくのか。こちら、12時時点です。やっぱり気温って上がっていくもんですね。しっかりと上がって行って、赤い線、どんどんどんどん超えていくんです。ほとんど、この時点ですと、危険と言われるのは6月で1回、7月で1

4回、8月で12回、もう半分ぐらいできない。3分の1ぐらいですね。実際にはスポーツができない状況になっております。

○議長（吉原美智恵君） 浅田議員、今の指標ですけど、もう一度、出元。

○議員（1番 浅田龍太郎君） 出元、はい。指摘ございました。こちら、出元が環境省の熱中症予防サイト、それで公開されている米子市のデータを、ちょっと同じ平地なので、大体同じような推移をしていると思いますので、米子市のデータをまとめてグラフ化したものがこちらになります。よろしいでしょうか。

○議長（吉原美智恵君） はい。

○議員（1番 浅田龍太郎君） 先ほど、同じようになるんですけども、12時の時点ですと赤が増えてまいります。赤というのはもう中止です。9時から気温が下がるかなと思って待っていても、やっぱり12時になると、もう中止になってしまうんですね。じゃあ、もうちょっと待ってみよう。もうちょっと待ってみた場合に、こちら、15時でございます。15時においてもまだまだ気温は高い状況です。全体的には7月であれば危険なのが7回、8月であれば13回、かなり高い推移を保っております。

少しはちょっと少なくなったかなというようなイメージなんですけれども、それでも子供たち、また、大人もそうなんですけれども、実際にリスクを取らないという判断をする上では、基本的には、やっぱりスポーツ大会っていうのは開催されない。夏場の、この夏休み、7月、8月、これは開催されないっていうのがほとんどでございます。大会というような言い方をしますけれども、やっぱり日頃の練習でもそうですし、なかなかスポーツの機会がそもそもなくなってしまうというのが今の気温上昇に伴う現状だというふうに考えております。

なぜこの話をしたかという、先ほど町長の答弁の中にもあったように、大山寺のほうまで行くと気温が5度下がるんですね。5度下がると何が違うかっていうと、この指標、注意は厳重注意まで下がります。すみません、厳重注意ですね。失礼しました、厳重警戒まで下がるんです。厳重警戒の場合は、警戒まで5度下がると下がるんですね。となってくると、大山寺であれば、スポーツができる、練習ができるというような環境を要はつくることができるんですね。

こういった、これが今の現状で、今後、気象庁、環境省からも21年度以内には2度から4度、4.5度ぐらい上がるというふうな予想も出ている中で、今後、子供たち、私たちもそうですけども、町民のスポーツの機会をなるべくできる環境を残しておいてあげるといえるのが必要になってくるんじゃないかというふうに考えるんですけども、先ほど答弁もいただきましたけれども、今の話を聞いて、ちょっと町長の所見をお伺いしたいです。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） すばらしい質問のつくり込みだなと思いますが、よく分かりま

した。私も個人的に、子供のスポ少の関係で、よく環境省の熱中症予防サイトを頻繁に見ます。割と、やっぱり暑さ指数が高い日が続いてるなというのは、夏休み期間とかもすごく感じたところであります。その上で、どういうふうに子供たちの環境を守っていくのか、スポーツ環境を守っていくのかという視点は大事だと思います。

今、米子市のデータでお話をいただきました。現状、サッカーコートでいいますと、大山町でよく使われるのは、名和の総合運動公園であったりとか山香荘です。名和の総合運動公園であれば、そんなに標高が高くないのであんまり変わらないかなと思います。山香荘ですと、平野部に比べたら何度かは気温が低いということで、恐らく暑さ指数としても、山香荘のデータはないですけれども、その環境省のページには。あの標高で測れば、恐らく暑さ指数ももう少し抑えられた状態なのではないかなというふうに思います。しかしながら、毎年8月にも、サッカー大会でいうと、だいせんカップですとかやっていたいておりますけれども、今年も大会に招かれて、少し行きましたけれども、非常に暑かったですね、山香荘であっても。この中でスポーツをするのは大変だろうなというふうに思いながら戻ってきたわけですが、その上で、もう少し標高が高い地形を有している大山町として何かできないかというお話でした。いろいろ検討の余地はあるかなというふうに思いますが、標高が高い部分に行けば、当然、国立公園のエリアであったりとか、様々な制約もありますので、そういったところとのバランス、あるいは需要と、それがどれぐらい満たされるのかというところのバランスになってくるかなというふうに思っております。

いずれにしても、これだけ気候が変わってきた状況において、スポーツをする環境っていうのはしっかり守っていかなければいけないかなというふうに感じているところでございます。

○議員（1番 浅田龍太郎君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 浅田議員。

○議員（1番 浅田龍太郎君） 町長の言われるように、山香荘もやっぱりちょっと気温が低いんですけれども、どうしても、ごめんなさい、根拠となるものを特に持ってきているわけではないんですけれども、何度か足を運んで気温を測ったことがございまして、大体低くても2度から3度ぐらい低い。2度から3度ですと、今後の気温の上昇を鑑みていくと、なかなか状況としては変わらないんじゃないかなというふうに考えております。ですので、私としては、大山寺というふうに今回分かりやすく出しておりますけれども、もうちょっと標高の高い位置に造ったほうがいいんじゃないかというふうなことで、また考えておりますので、ぜひ検討をしていただけたらと思います。

続いて、ちょっと2点目ですね。思ったよりも時間が進んでいるので、2点目に行きたいと思います。先ほど誘致可能だというふうに、鳥取県サッカー協会からも、5大会ほどだということで回答を得ているんですが、これはいつ時点の話になるんでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 詳細は担当からお答えさせていただきます。

○商工観光課長（源光 靖君） 議長、商工観光課長。

○議長（吉原美智恵君） 源光商工観光課長。

○商工観光課長（源光 靖君） 協会に確認したのは今月になってからでございます。

○議員（1番 浅田龍太郎君） すみません、議長。

○議長（吉原美智恵君） 浅田議員。

○議員（1番 浅田龍太郎君） 失礼いたしました。ありがとうございます。今月になって、大会というものについては5大会ほどだと僕も認識をしております。けれども、地域から、J F Aが開催できる大会が5大会なのであって、地域の大会ですとか、中学校同士の練習試合なんかというのはその中に含まれていないので、やっぱり、県外から練習試合をしに来たという内容も結構多くありますので、日々、大山寺にあることで使うことができるんじゃないかというふうに考えてはいるんですけども、町長、よければ所見を伺いたいです。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

視点として、社会体育施設という考えで、町内あるいは地域の人たちの社会体育をするために必要なハード整備というところもありますし、大山町内に旅館、民宿、宿泊施設がありますので、そういったところへの経済波及効果を考えての整備という、2通りあると思っています。確かに大きい大会であれば人はたくさん来ますけれども、それが例えば日帰りですと、恐らくそんなに多くの経済効果が見込めないのかなと。むしろ夏場の合宿利用だとか、そういう形で長期間この地域に滞在していただけるような利用の仕方であれば、経済波及効果はあるものというふうに認識をしております。それらを見比べた上で、今後の整備というのがどれぐらい必要なのかというところが決まってくるものだというふうに思っております。練習試合等も同じ考えだというふうに思っております。

○議員（1番 浅田龍太郎君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 浅田議員。

○議員（1番 浅田龍太郎君） 先ほど答弁でいただきましたこの規模の大会というのは、基本的に数日間かけて行われるような大会ではないかなというふうに考えています。大体300名以上の集客が見込める場合というのは、第4種、小学校ですとか、8人制のサッカーで考えたときに、大体大きな大会をすると300人ぐらい集まる。これというのは、24チーム呼ぶぐらいの想定で1大会ってというのは考えられております。24チームとしたときには、おおよそ試合に出れるのは8人と監督、コーチ、最低でも10人。10人として、プラス、親御さんを入れて300名。この300名は、24チームが数

日間にわたってリーグ戦をしていくというようなイメージですので、実際には宿泊、合宿をしながらこの試合に臨んでいくのではないかと考えるんですけども、先ほど回答をいただいた日帰りではなく、こういった経済波及効果もあるのではないかなと考えるんですけども、お間違えないでしょうか。町長の考えを聞きたいです。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

どういう大会の中身かというところを承知しておりませんが、分かれば担当からお答えをさせていただきます。

○商工観光課長（源光 靖君） 議長、商工観光課長。

○議長（吉原美智恵君） 源光商工観光課長。

○商工観光課長（源光 靖君） 大会の詳細、例えば、何日間日程とか、それぞれというところまでは、今のところ詳細確認しておりません。

○議員（1番 浅田龍太郎君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 浅田議員。

○議員（1番 浅田龍太郎君） 実際に鳥取県サッカー協会のほうに足を運んできまして、会長のほうから実際にこういった回答を得ておりますので、基本的には数日間使って、二、三日のスポーツ大会、サッカー大会をするというようなイメージで検討していただけたらと思います。

続いて、ちょっと3番目についてです。サッカーJリーグについての話なんですけれども、今、西洋のほうのサッカーチームというのは、基本的に夏を避けてのリーグ開催になっております。ですので、これに合わせて、今回の熱中症の件ですとか、暑くてパフォーマンスが下がるですとかっていうところを鑑みて、要はシーズンの変更が2026年から行われる予定となっております。そうなってきたときに、要は、6月、7月、こちら、キャンプ地の今争奪戦が起こっているような状況です。すぐすぐ整備できるというふうには私も考えてはいないんですけども、後々こういったところに立候補していくことが要は継続的な利用につながっていくんじゃないかなというふうに考えております。先ほど答弁の中で時間軸としてちょっと実現が困難と考えますというふうな回答をいただいたんですけども、今年度中じゃなくて、今後ずっとシーズンの時期というのは変わっているので、この辺りではほかにない高い高地の、標高の高いところにグラウンドを造るっていうのは、この周辺のJ2、J3、JFLのチームが使えるブランドをつくっていく、固定的に毎年毎年使ってもらうことで、夏のシーズンの集客に見込めるんじゃないかというふうに考えております。

ちょっと町長の時間軸としての実現が困難というところについて、回答をお願いします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

まず、もうキャンプの時期、スタートする時期まで1年切っているということで、今いろいろ、各地で誘致なり動きをしているところがあるということは承知をしておりますが、一度そのキャンプ地になれば、恐らく頻繁にその場所を変えるということは考えにくいかなというふうに思っております。致命的な何か欠点等があれば場所変更ということも考えるチームもあるかもしれませんが、もうシーズンが変わって、キャンプ地が変わるというところで、その地を選んでもらわなければ、恐らくその先は、非常に誘致をするのは難しい状態になるというふうに思っております。

さらに、標高の高いところでそういったハード整備をした場合に、確かに夏場は気温が低くていい、そういったキャンプ等でも利用していただけるかもしれないということはあると思います。しかしながら、例えば、平野部のほうでは冬場でも使えるグラウンドがあると思いますが、標高が高くなればなるほど当然積雪が今度出てきますので、冬場の利用がかなり制限されるというような状態にもなりますから、そういったところでのバランスが非常に難しいのではないかなというふうに考えております。

○議員（1番 浅田龍太郎君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 浅田議員。

○議員（1番 浅田龍太郎君） 確かに、一度決まってしまったものを変えていくというのは、町長の腕次第かなというふうに僕は考えているんですけども、先ほど言われました冬の利用について、冬場については、これからスキー場が新しく整備されて、ある程度集客ができるんじゃないかなというような前提の上でちょっと話をさせていただくんですけども、この大山寺としましたのは、冬場の利用で、駐車場ですとか、スキー場から近いところにグラウンドを造れば、そこに駐車場が造れる、そこに駐車場が1個できるようなイメージで、要は、天然芝というのは、夏は生きてるんですけども、冬になると休眠状態に入ったりもするので、芝によっては駐車場としての利用ができるんじゃないかなというふうに考えております。そういった使い方は、町長としてはいかがでしょうか。すみません。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

今現在、スキー場の中長期ビジョンについてまとめているところでありまして、どういう整備が必要なのか、駐車場のキャパも含めて、どれぐらい足りてないのか、あるいは十分足りているのか、そういったところがこれから示されるところですので、現状において、スキー場の駐車場としての利用というのはなかなか判断がつかないというふうに考えております。

○議員（1番 浅田龍太郎君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 浅田議員。

○議員（1 番 浅田龍太郎君） では、先ほど、山香荘の夕陽の丘のサッカー場について、今後整備を進めていくというような話が総務経済常任委員会でも上がっているんですけども、今後の展望についてちょっと教えてください。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

今後の展望に関しては、最初に答弁をしたとおりでありますけれども、今後、その施設の利用状況、あるいは経済波及効果等を鑑みて整備は考えていくというところでございます。

○議員（1 番 浅田龍太郎君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 浅田議員。

○議員（1 番 浅田龍太郎君） その整備の中に、天然芝グラウンドを2面造るというのは今検討されているのでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

現時点で山香荘で新たにサッカーコートを造っていくというような計画はございません。

○議員（1 番 浅田龍太郎君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 浅田議員。

○議員（1 番 浅田龍太郎君） 2面整備できる意味ってところが、大会ですとか、呼ぶ際に、鳥取県サッカー協会が大会をするなどする際には、2面あるほうが誘致しやすいっていうのがあるんですけども、そういった点から、要はいろんな人が来ていただいて、経済効果が出てくるんじゃないかなというふうに考えるんですけども、ちょっと今検討されてないということで、また町長と話しながら、ぜひ検討に進んでいけたらなというふうに考えます。

じゃあ、ちょっと教育長にお聞きしたいんですけども、今、夏のスポーツについて、今後の方針ですとか、どういうふうな、要は環境をつくっていこうというような考えがもしあれば教えてください。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） お答えいたします。

夏場のスポーツの方向性についてですが、今日、浅田議員がたくさんの資料を提示してお話しされたことは非常に分かりやすく、今後の参考になりました。現状、本当に急速に気温が上がっておりまして、私の子供の頃の50年前、浅田議員がまだ生まれて

ない頃の気温っていうのは、30度になったら、夏に、暑くなって言ってたんですけど、なかなか30度になることはなかった。それが、30度が当たり前になり、40度ということになる、これが多分当たり前になると思います。ですので、今、部活動、学校でやってる部活動等については、やはり議員のおっしゃられるような、時間帯を考えた運動のやり方をしております。甲子園も暑い時期は時間帯をずらすとかしてるように、朝の早い時間からやるとか、今年の運動会も、中山中学校は8時半スタートで運動会をやってきました。前の頃はもっと遅かったんですが、やはりそのように、今のところは時間帯をずらしながら対応しております。

施設整備につきましては、現在、教育委員会が所管している施設等も検討しながら、今後の方向性についてはこれから検討を始めているというような状況でございます。以上です。

○議員（1番 浅田龍太郎君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 浅田議員。

○議員（1番 浅田龍太郎君） 先ほど40度になってくるのが当たり前というふうに言われましたけれども、確かにそのとおりだと思います。昨日もニュースで、そろそろ40度超えたときの表現方法を考えようかみたいなところが上がってまして、酷暑のさらに上が今後できていくんだなというふうに僕も感じていて、実際に、やっぱり気温、僕の頃もそうだったんですけど、30度を超えるっていうのがそもそもあんまり、ちょっとあったんですけど、僕の場合は、あんまりなくて、今から考えると涼しい中、できてたんだなというふうに思っております。

ちょっともう一度教育長にお聞きしたいんですけども、この時期がずれることによって、教育等に影響は出ないんでしょうか。教育カリキュラムですとか、例えば、地域の塾の、塾まではちょっと分かんないかもしれん、地域の活動について、スポーツで参加できない分、そういったものがどんどんどんどんずれていく、要はそういった予定がなかなか立てにくい状況があるんじゃないかなというふうに考えるんですけども、教育長の考えをお願いします。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） お答えいたします。

浅田議員のおっしゃるとおり、単純にずらすことによって不都合が起こるということはあると思いますので、関係機関、関係者と相談しながら進めてまいりたいと思っております。

先ほどちょっと言い忘れましたけど、施設の整備という部分でいえば、体育館ですね。体育館の使用については、どうしても学校の授業中に体育の授業は行わないといけないということで、日中運動することは避けられない状況になっております。ですので、これからの気温上昇を考えると、体育館の使用ということにつきましては、冷房化も考え

ていけないといけないなっていうふうには考えております。以上です。

○議員（１番 浅田龍太郎君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 浅田議員。

○議員（１番 浅田龍太郎君） 先ほど、体育館、整備していただくっていうのはとても大事なことだとは思いますが、私がやったサッカーですとかっていうのは外じゃないとできないんですね。中でやったりすると、何か設備が壊れたりとかで、いや、またサッカー一部かみたいなのうに言われるようなことがよくあったので、ぜひ屋外についてもよりよい方法で、教育に影響がない範囲内で検討していただけると助かります。

では、２問目の質問に移りたいと思います。人口減少対策として道の整備をということで、道の整備とはインフラの整備ですね。各地で水道管の破裂ですとか、道路の陥没、こういったことが多発に起きています。やはりこういったところに町民の関心は高まっているんじゃないかと思ひまして、今回お話しさせていただきたいと思ひます。こういったインフラの更新ですとか維持管理の重要性というものについてお聞きしたいと思ひます。

現在、大山町において、今回、宅地造成ともう一つ、通学路、生活道路についての道路整備なんですけれども、まず、宅地造成については、これに合わせて、要はそれに必要な範囲で給排水を通してするように僕自身は思っております。その結果、宅地の供給はやっぱり限定的になってしまいます。というのも、例えば旧大山町地区、所子地区ですと、そのほか、今、宅地造成している以外の部分に給排水が通っていないので、一般的に、要は土地の売買をして給排水を引っ張ってきてっていうのが現実的にちょっと難しい状況になっているかなというふうに考えてます。そういったところで、要は宅地の需要に対して供給が合っていないんじゃないかなというふうに考えてます。いつも宅地造成が終わるとすぐ家が建って行って、これ、まだまだ需要がいっぱいあるんじゃないかなと考えている反面、道がどうしても給排水、通っていないところが多くて、宅地化されてないっていうものもあるんですけれども、要はインフラが整ってないばかりに、土地の持ち主が売ることができないというような現状があるのではないかなと考えております。

また、もう一つ、通学路についてなんですけれども、通学路、生活道路など、交通安全の観点から、道路についても一定の改善は見られるものの、必ずしも十分とは言えないような状況にあるかなと思っております。今、子育て支援ということで、大山町、大々的にしておりますので、要は子育て支援のために大山町に移り住んでくれた人が安心して学校に通える道というものをしっかりと造っていくべきではないかなというふうに考えてます。

この２点について、町長に伺いたいと思ひます。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 浅田議員の2問目の質問にお答えをいたします。

人口減少対策としての道の整備をということで、2つ御質問をいただきました。

まず、1点目の上下水道の整備、給排水のインフラ整備が十分に行き届いてない、それによって宅地の整備等が進まないのではないかというお尋ねがありましたけれども、まず、今、大山町の仕組みというかプロセスに関しましては、例えば、本当に給排水がないエリアで、近くに給排水の本管等がある場合には、事前に御相談をいただいた上で、町のほうでどこまで整備ができるのかといったところは検討ができるというふうに思っておりますし、また、すごく飛び地であれば、その給排水の問題というよりは、農地転用がなかなか難しいというような別の課題というか、むしろそっちのほうハードルが高いんですけれども、そういった課題がありますので、実際問題、その給排水、上下水道の整備によってそういった宅地の開発が制限されているという状態は現状のところ、ないものというふうに認識をしております。

2点目の通学路等の道路整備、歩道整備も含めてだと思えますけれども、のお尋ねがありました、現在でも、地域の声を聞きながら、例えばPTA要望を毎年各小・中学校からも出していただいておりますけれども、そういったところで、通学路の安全確保というところは取組を進めてきております。特に浅田議員の地元の周辺でも、今、歩道がない部分に関して歩道の整備ですとか、あと、踏切を渡るあたりの前後区間の道路が狭いというようなところも、鳥取県と相談をいたしまして、県道であれば県と連携をしながら、通学路の安全確保というところに努力をしているというところであります。

また、部分的に危険な箇所等があれば、ぜひ声を上げていただければ、整備に向けて進めていきたいというふうに考えているところでございます。

以上で答弁といたします。

○議員（1番 浅田龍太郎君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 浅田議員。

○議員（1番 浅田龍太郎君） 確かにそうだと思います。特に通学路なんかというのは、よく見回ってくださってるお父さん、お母さんですとか、教職員の方、僕もよく見ます。何しに行くんですかって聞いたりすると、今からちょっと通学路を確認しに行くんです、危険箇所がないか見に行くんですって言われることが何回かあって、しっかり取り組んでおられるな、ありがたいなというふうには感じております。

ちょっとすみません、まず1点目の質問から聞かせてください。ちょっとこれも旧大山町所子についての話なんですけれども、そもそも給排水が通ってるかっていうところで、水道課のほうから、僕、事前にお願いはしていたんですけれども、図面がないんですね、給排水設備についての。これだけしかないよっていうふうに言われたんですけれども、そういったところの管理というのはどうなっているんでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

1日に1回、議員が議長になりますけれども、町長でございます。

上下水道の管路の管理に関しては、水道課のほうで適切に行っているというところがあります。対外的に出せるものと出せないものといういろいろあるのかと思いますけれども、管理をしているというところでもあります。ただ、古いもので、例えば上水道であれば、整備してから相当年数がたっているというところもあって、また、合併前からそれぞれ引き継いでいますので、そういったところで、なかなか全部細やかに管理がし切れてない部分ももしかしたらあるというところだというふうに感じております。

○議員（1番 浅田龍太郎君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 浅田議員。

○議員（1番 浅田龍太郎君） 実際に直近で家建てようかなというふうに僕個人、考えてはいたんですけども、ちょっとそこでくじけておりまして、実際にはないんだよね、今というふうに言われたので、実際に管理してるんだとは思んですけど、たまたま出てこなかったんだと思います。

今後なんですけれども、こういった宅地を提供する、供給するに当たって、どういった部分を、どの地区をとっているのはある程度戦略化されてるんじゃないかなというふうに考えております。どの地区だったらこれぐらいの需要があって、これぐらい増やしていてもいいよねというのに基づいて宅地造成を行ってると思うんですけども、今後の見通しですとか、どれぐらい需要があるのか、もし分かれば教えてください。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

まず、宅地開発に関しましては、民間の宅地開発が進んでいるエリアとそうでないエリアがあるということでもあります。宅地開発がしやすいというのは、農地以外の部分というのがまず上げられます。それ以外で、農地を転用して宅地を開発しているというところもありますけれども、農地を転用する場合には、既に転用された農地に続いていく部分だとか、割と農地転用が認められやすい部分から宅地の造成などが進んでいるというふうに考えております。ですので、特に農振だとか、あとは農地転用、こういったところが宅地開発において制限される部分だと思いますので、こういったところが宅地開発のネックになっているというところもあると思ってます。特に今、町で、直営で中山地区のほうでは、宅地整備が民間で進まないの、町で宅地開発をしていこうということで進めておりますけれども、事業者が農地転用をして宅地開発をする場合に、やはりほとんどの場合が建築条件付ということで、宅地を造った後に期限を決めて、その中でもう家を建ててしまわないといけないというような制限もあったりして、そういうリスクを嫌うところで、やっぱり需要があるかもしれないけれども、より需要が高いエリアでの開発が民間では進んでいるというような現状であるというふうに考えております。

○議員（１番 浅田龍太郎君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 浅田議員。

○議員（１番 浅田龍太郎君） 先ほどの答弁の中に、農転しやすい場所というふうな話があったんですけども、そういったところから順次インフラ整備を進めていって、農転についてはもう個人でもらうってというような考えはあるのでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

農地転用しやすいという表現ではなくて、農地転用が認められやすいということですが、そういうところはやはりあると思っています。そういうところを中心にインフラ整備といいますか、そういう開発が行われるのであれば、事前に御相談をいただいて、必要なインフラ整備が町のほうでする部分があれば行っていくというような考えで進めているところでございます。

○議員（１番 浅田龍太郎君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 浅田議員。

○議員（１番 浅田龍太郎君） 多分、僕とちょっと考え方というか、あれが逆なんだろうっていうふうに感じています。

○議長（吉原美智恵君） つぶやかないように、はっきり言ってください。

○議員（１番 浅田龍太郎君） どっちかっていうと、ここに家を建てたいから、町のほうに相談してもらえれば、要はそこについてはインフラ整備を進めるかどうか検討していただけるというような理解でよろしいですね。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

宅地開発をされる事業者というのは、町のほうでも補助金を出しておりまして、最低区画数も決めております。その上で、上下水道をその宅地の中に整備をしていかなければいけませんので、その近くに接続できる上下水道が通っているのかどうか、また、近くに通ってなければ、それをそこまで持ってこれるのかどうかというところは事前に協議をいただいて、整備をするということになると思います。

あらかじめ整備をしたほうが開発が進むんじゃないかというようなお話もよくいただくんですが、実際のところ、インフラを先行で整備するのと、事前に御相談をいただいて、整備できるかどうかをやるのとでは、効果としてはあまり変わらないと思っています。一応、町としてはそういった開発がある場合には御相談をいただいて、できる限り対応していくということで進めておりますので、先行した整備が効果的だというような結論には至ってないというところでございます。

○議員（１番 浅田龍太郎君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 浅田議員。

○議員（1番 浅田龍太郎君） では、実際に相談をした場合に、その道の整備、インフラの整備について、オーケーが出たとなった場合に、どれぐらいのスピード感でしていただけるものなのでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

個別の案件につきましては、一概にどうというのはありませんので、また御相談をいただければというふうに考えております。

○議員（1番 浅田龍太郎君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 浅田議員。

○議員（1番 浅田龍太郎君） 続いて、ちょっと通学路についての質問をさせていただきます。

通学路、先ほど議題に上げているこの道の整備っていうのは、一概的に、政策として、正直言うと、過小評価されやすい面があるかなというふうに思ってます。なかなか効果として見えづらい部分があることっていうのは確かなんですけども、実際に、学校に通ってる、親御さんですとか、それから、この道どうにかならんかっていうような相談をよく受けます。そういったところで、実際にPTAさんですとかから、ここを整備してほしいっていうふうに上げてもらって、要は補助金の下りてから整備というような形になるというふうに認識しております。補助金の下りなくても整備することというのはあるのでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

まず、通学路に指定されている道路に関しては、道路整備の優先順位としては高くなる傾向にあると思っています。これは町だけではなくて、国、県でも同じ考え方で取組が進んでいるというところであります。その上で、国道であれば国への要望、県道であれば県への要望ということで整備をしてもらうということになりますし、町道の整備ということになれば、社会資本整備総合交付金等を活用して整備をしていくことになるというふうに基本的には思いますので、そういったものが交付決定をされてから事業をするというようなプロセスが基本的なものではないかというふうに考えております。

○議員（1番 浅田龍太郎君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 浅田議員。

○議員（1番 浅田龍太郎君） 実際に通学路というふうに把握していても、子供たちっていうのはいろんなところを通るわけですね。ちょっと今日はこっちの道から行こう、今日はこっちの道から行こうかっていうようなことが考えられる中で、どの程度その辺り

を想定されて、もしかしたらここも通るかもしれない、じゃあ、ここも整備しようっていう話になっていくのか、それとも、注意喚起としてこの道を使ってくださいねというふうに大山町のほうからお願いをして、家族さんに子供がそこを通るようにしてもらっているのか、方向性としてどちらなのか、ちょっとお聞きしたいです。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

これは教育委員会の答弁かもしれませんが、基本的には指定された通学路を通じて登下校をしてもらうというのが基本だと思っております。

○議員（1 番 浅田龍太郎君） 終わります。

○議長（吉原美智恵君） これで浅田龍太郎議員の一般質問を終わります。

---

○議長（吉原美智恵君） ここで休憩とします。再開は 10 時 40 分です。

午前 10 時 27 分休憩

---

午前 10 時 40 分再開

○議長（吉原美智恵君） 再開します。

14 番、近藤大介議員。

○議員（14 番 近藤 大介君） 近藤大介です。9 月定例会最後の一般質問になりました。よろしくお願いします。本日、2 問用意してきておりますので、よろしくお願いいたします。

まず初めに、大山小学校区の人口減少対策についてということで、町長、教育長にお尋ねをしていきます。

近年、大山小学校区の出生数は 5 人前後で推移してきています。このままでは、大山保育園、大山小学校の存続の在り方にも影響をしていきますし、校区内の集落の担い手確保、定住問題に大きく関わる課題だと思っております。

その上で、4 点お尋ねをいたします。

1、大山小学校区の少子化について、どのように考えていますか。

2、大山保育園、大山小学校の今後の在り方についてどう考えていますか。

3、大山保育園の年間運営費用はどの程度ですか。また、今後 5 年以内に発生し得る施設の修繕費用や備品等の更新費用などをどの程度見込んでいますか。

4、大山小学校区内に子育て世帯を対象とする新たな町営住宅の整備を検討していきませんか。

以上、答弁をお願いします。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） 近藤議員からの一般質問にお答えいたします。

大山小学校区の人口減少対策についてという御質問をいただいております。質問の 1 問目から 3 問目までは私がお答えしまして、4 問目は町長がお答えいたします。

まず、第 1 問、大山小学校区の少子化についてですが、少子化問題は、大山地区に限らず、かなり速いスピードで進んでいると思っております。大山地区の出生数は、近藤議員のおっしゃられるとおり、令和元年度以降は 5 人前後で推移しております。

2 問目の大山保育園、大山小学校の今後の在り方についてですが、大山保育園、大山小学校は、国立公園大山にも近く、自然豊かな環境の下で保育、学習ができる最適な場所であると思っております。また、歴史ある大山小学校の存続を願う地域の方々の思いもありますので、今後の児童数を増加させ、大山小学校を存続するために、大山町全域からの大山小学校への就学を可能にする特認校制度の導入を検討しているところでございます。この特認校制度というのは、従来の通学区域は残したままで、特定の学校について、通学区域は関係なく、希望者の申請により、町内のどこからでも就学を認めるものでございます。

大山保育園につきましては、令和 4 年度にとっとり自然保育認証園の承認を受け、豊かな自然の中で、子供一人一人を大切に、保護者や地域と連携しながら、心身ともに健全な成長を目指すことを保育理念とし、地域の方々に御協力をいただきながら、大山の雄大な自然を活用し、自然に親しみ、生きる力を養う、魅力ある保育に取り組んでいるところでございます。

3 番目の大山保育園の年間運営費用、また、今後 5 年以内に発生する施設の修繕費用等の見込みについてですが、年間運営費用は、人件費を含めると約 5,000 万円、人件費を除くと約 2,800 万円となっております。今後 5 年以内に発生する施設の修繕費用等の見込みについては、緊急の修繕を除くと、照明の LED 化に 200 万円程度の財源が必要であると見込んでおります。

以上で答弁とさせていただきます。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 近藤議員の一般質問の 4 点目についてお答えをいたします。

現在、所子地内におきまして、子育て世帯を対象とした住宅を整備しております。これは令和 8 年 2 月より募集をかける予定としておりますので、この住宅の入居状況、ニーズを見ながら、今後、どのエリアでどのような規模の住宅を整備すべきか判断していきたいと考えております。

以上で答弁いたします。

○議員（14 番 近藤 大介君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 近藤議員。

○議員（14 番 近藤 大介君） 今、教育長のほうからも答弁がありましたけども、この

数年でいえば元年度以降、ですから、6年、7年、出生数が5人前後で推移していると。今回きちんと調べてはきてませんが、恐らく10年ほど前の状況に比べると、半減、どうかするとそれ以下の数字になっていると思います。非常に深刻な問題であると思っています。

その上で、まず、町長にお尋ねしたいと思っておりますが、大山小学校区、旧大山村エリアについて、このエリアの特徴について、町長はどのように認識をしておられるでしょうか。

私は、このエリア、歴史的に大山寺との結びつきが強く、それ以前から、古代から続く歴史の古いエリアだと思っております。また、豊かな農地のある米どころでもあり、大山や日本海の眺望もあって、四季折々の美しい農村風景、これは、私は大山観光に欠かせない景観だと思っています。国立公園のあるエリアでもあります。

それから、エリアの広さ、香取から大山寺、種原、鉾戸、豊房、前、下楨原、赤松、佐摩、坊領、宮内、平、全ての集落、地域は行ってませんが、ぐるっとこれ、回ると、もう車で駆け抜けるだけでも1時間以上かかるはずです。それだけの広いエリアと同時に、まさに大山観光の拠点といいますか、お膝元、登山があり、スキー場もあり、秋の紅葉など、大山観光のメインのエリア、それが大山小学校区、旧大山村エリアだと私は思ってるんですけども、町長の御認識はいかがでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

旧大山村のエリアの認識のお尋ねですけども、近藤議員がおっしゃいましたように、農業、あるいは観光、それから、歴史、文化、自然、様々な魅力が詰まっているのがこのエリアだというふうに認識をしております。

○議員（14番 近藤 大介君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 近藤議員。

○議員（14番 近藤 大介君） その上で、私は、この旧大山村のエリア、大山村の暮らしを守っていくことが将来的に大山寺を守っていくことになると思いますし、そのことは大山町として大山観光を発展させていく上で欠かせないことだと思っています。そして、旧大山村を守っていくということは、その上で、旧大山村の農地をしっかりと守っていくことが旧大山村の暮らしを守っていくことにつながると考えております。

そのような認識の下、再度町長にお尋ねしますが、大山の観光地として、その大山村エリアの景観保全の観点も併せて、このエリアの農業振興をどうしていくべきか、町長の御認識をお尋ねしたいと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

旧大山村エリアの農業振興をどういうふうにしていくのかというお尋ねでしたけれども、昨日、一昨日も農業関係の議論が様々ありました。西本議員からは、大山地区には特に水田が多いというようなお話もありました。その特徴の一つが、やはりこの大山村エリアでも広がっているというふうに認識をしております。こういった水田、それから水田だけでなく、畑地も含めてですけれども、引き続き、景観維持の面も含めて、農地が活用される、農業が振興される、そういうような政策が必要だというふうに考えております。

○議員（14番 近藤 大介君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 近藤議員。

○議員（14番 近藤 大介君） 大山村エリアは、山間地というか、中山間地ですので、高低差もあって、平野部とは全然環境が違います。こういったエリアでも徐々に大規模化は図れてきていますけれども、大規模な農家がどんどん機械化していけば水田営農ができるということではないですね。やはり水路や畦畔を適切に管理していくと。そのためには、どうしてもマンパワーが必要です。やはり集落にしっかりと後継者が残っていきながら、大規模農家と一緒に農地を守っていく取組をしないと、農地は守っていきません。

にもかかわらず、この広いエリアの大山村エリアで、年間、今5人ほどこしか子供が生まれない。しかも、ますますまだ減っていく可能性もあると。これは大きな課題じゃないですか。早急にこのエリア、大山町自体で課題であることは間違いはないですけれども、特にこの大山村エリアで、若者が定住する施策、優先的に取り組んでいく必要があるのではないのでしょうか、どうですか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

まず、旧大山村のエリアで農業がこの先も続いていくように、人手が必要じゃないかというお話がありました。既にこの旧大山村エリアで先進的な取組をされているところ、また、農業生産法人として規模拡大を図っているところ、様々あります。聞くとところによると、まだまだ農地の耕作面積を増やしていきたいけど、いや、逆に農地がちょっと足りないんだとか、そういうような、うれしいような声も聞いているところでありますし、また、先般、県下でも先進的な、ドローン等を活用した農業をやっているということで、いろいろな取上げをされていることもありまして、省力化を図りつつ、請け負える面積を広げていこう、そういう意欲的な生産者もおられるというところであります。こういった人が減っていく中でも、人手不足を解消しながら、担い手不足を解消しながら、やっていく方法を様々な手法で編み出している、それによって持続可能性を高めているというところが、この地域での農業振興ではないかなと、農業振興の特徴ではないかなというふうに考えておりますので、引き続きそういった取組に協力をしながら、人

が減ったとしても、持続可能な形で農業ができるように取り組んでいきたいというふう  
に考えております。

○議員（14番 近藤 大介君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 近藤議員。

○議員（14番 近藤 大介君） 当然、大規模化しようとする農家はしっかりと支援して  
いく必要があろうかと思えますけれども、そのことだけで、景観も考慮した豊かな農村、  
水田を維持できるのか。大規模農家がどんどん規模拡大していけば、今までどおりに水  
田を、農地を維持できると町長はお考えなんでしょうか。

○議長（吉原美智恵君） 近藤議員、農業政策に入りますと、人口減少対策の大山小学校、  
題名とちょっとずれてきますので、御注意ください。

○議員（14番 近藤 大介君） はい。

○議長（吉原美智恵君） 取りあえず。

○議員（14番 近藤 大介君） まあ、いいです。

○議長（吉原美智恵君） 町長が答えれば。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

お答えします。

昨日、一昨日も同じような話をしましたけれども、大規模農家だけがあればいいとい  
う話はしておりませんで、大規模農家が、担い手がない地域、あるいは引き受け手がな  
い農地の、これから先の担い手として期待されるところが大きいという話はさせていた  
だいておりますが、大規模農家だけがあればいいというような考えではないというところ  
であります。引き続き中小の規模の農家の皆さんとの連携も必要だと思いますし、そ  
ういった多様な形で農業が発展していく、維持されるというところが大事ではないかな  
というふうに考えているところでございます。

○議員（14番 近藤 大介君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 近藤議員。

○議員（14番 近藤 大介君） 私は、農業生産には、業として農業とするわけではない  
けれども、やはりコミュニティーの一員として大規模農家と一緒に農地を守っていくと。  
水路の管理だったり、その他の作業も協力しながら取り組む、やっぱり集落の構成員が  
しっかりと残っていないと、農地は維持できないと思っています。

それは一旦置いて、現状、若い世代がどんどん減っていると。やっぱりこれの対策と  
しては、町営住宅も一つの手段として早急に検討をすべきだと思っていますが、当面そ  
の考えはないということでしたけれども、エリアの中には今在家の町営住宅があります。  
この今在家の町営住宅も、整備してからもうほぼ40年たちます。恐らくやはりこの旧  
大山村エリアの若者定住のために整備された住宅だと思っておりますが、改めて、もし  
今分かれば、この今在家住宅を整備した目的、それから、現状、3戸空き室があると聞  
いておりますが、改めて空き室の状況、それから、その空き室について、募集もかかっ

てないという話も聞いたりしておりますが、なぜ空き室の募集をしていないのか。あわせて、40年前に整備した住宅です。入居者の方の高齢化も進んでいるのではないかと思います、その辺りについても、もし分かれば、分かる範囲で御答弁をいただきたいと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

詳細のお尋ねですので、担当からお答えをさせていただきます。

○建設課長（赤川 佳隆君） 議長、建設課長。

○議長（吉原美智恵君） 赤川建設課長。

○建設課長（赤川 佳隆君） 御質問のほうをお答えさせていただきます。

現在、今在家住宅でございますが、24戸、部屋があります。現在、入居数は21。議員さんおっしゃられた空き家が3つございます。これは整備待ちという形にしているところでございますが……。

○議員（14番 近藤 大介君） 何待ち。

○建設課長（赤川 佳隆君） すみません、政策空き家でございます。整備待ちの状況でございます。これは、修繕費がかかるために、入居の問合せがあれば整備を行っていく予定としとるところでございます。また、ここについては、関係部局と情報共有をして、情報提供のほうを行っていきたいと考えとるところでございます。

また、高齢者世帯でございますが、今在家住宅は高齢者の方、6世帯でございます。以上でございます。

○議員（14番 近藤 大介君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 近藤議員。

○議員（14番 近藤 大介君） 入居の問合せがあってから、要は前の入居者が退去された後、すぐ入れるような状況にしていないということのようですけれども、やっぱり問合せがあったときにすぐ入居できるように、修繕をしっかりと整えて、入居の募集をしていくことが必要ではないかと思いますけど、どうなのでしょう。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

今現在、町内に町営住宅たくさんあります。その中で、耐用年数が過ぎている、特に戸建ての住宅を中心に払下げ等も行いながら、今、戸数の整理をしているところであります。

また、古い建物であればあるほど改修にも多額の費用がかかりますので、大きな修繕が必要なところに関しては、御相談をいただいてからの対応にならざるを得ないというふうに考えております。小規模な修繕、小修繕等であれば、今までどおり、修繕をした

上で、入居者がいつ来てもいいような状態にするというような考えの下、整備を行っているというところでございます。

○議員（14番 近藤 大介君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 近藤議員。

○議員（14番 近藤 大介君） 少し視点を変えます。

大山保育園、近年、5人前後しか子供が生まれていないので、令和7年度3月の議会で、委員会で調査した際の数字としては、令和7年度の大山保育園の入所予定数は22人だと聞いております、その後、多少の増減はあるかもしれませんが。ほんの数年前に、庄内保育園がかねてからの基準として、入園の園児30人を下回ればもう廃園にしますという当初からの方針に従って廃止をされたことを考えると、22人しか園児のいない保育園の存続、仮に3人や5人になっても、園を維持するのかと、そういった方針にも関わってくる話だと思います。

私はかつて、やはり大山保育園の周辺、非常にいい環境だと思っているので、森のようちえん的な施策、町の直営でも、あるいは民間事業者に委託してでも、そういった、よそにはない特色を出しながら、保育園を継続できるよう、そして、その特色のある保育園を目掛けて移住定住が呼び込めるような取組をしたらどうかという提案もさせてもらったこともありますが、本当にそういうことを真剣に考えていかないと、私は、大山保育園、なくしてしまったほうがいいとは思いませんけども、必然的にそうせざるを得ない状況になっていくのではないかと思います。

改めて、そのことについての教育長の御認識をお尋ねしたいと思います。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） お答えいたします。

大山保育所の今の保育の状況ですが、近藤議員のおっしゃる、森のようちえんのような自然豊かな活動をたくさん取り入れて、特色のある保育園にしたらということですが、もう既に大山保育園では、先ほど申しましたように、令和4年度からとっとり自然保育認証園として自然保育を特色のある保育として掲げてやっております。例えば、近くの山に、佐摩山に登ったり、大山のほうを散策したり、また、自然豊かな川が、歩いて行けるところに川がありますので、川に行ったら自然体験をしたり、本当に周りに豊かな自然がありますが、それをフルに活用した保育を行っておりますので、この大山保育園の豊かな自然の中で子育てをしたいということで、他地域からもこちらに来て育てたいというふうな声も聞いておりますし、実際そのような方もおられるというのが現状です。以上です。

○議員（14番 近藤 大介君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 近藤議員。

○議員（14番 近藤 大介君） 校区外から大山保育園に保育に利用しておられる園児の

人数はどのくらいあるんでしょうか。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） 校区外といいますと、保育園は大山町内どこからでも来れますが、大山……。

○議員（14番 近藤 大介君） 小学校区。

○教育長（鷺見 寛幸君） 小学校区外ですか。詳細については担当のほうがお答えいたします。

○幼児・学校教育課長（井上 龍君） 議長、幼児・学校教育課長。

○議長（吉原美智恵君） 井上幼児・学校教育課長。

○幼児・学校教育課長（井上 龍君） 失礼します。詳細な数は把握はしておりませんが、数名です。2名とか3名でございます。以上です。

○議員（14番 近藤 大介君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 近藤議員。

○議員（14番 近藤 大介君） 教育長が説明されたとっとり自然保育認証園の制度、これ、自然体験とか一定の基準を満たせば、そういう認証をしてもらえる制度だと思いますが、例えば米子市内の保育園とかでもこの認証を受けておられる保育園、たくさんあったと思います。だから、結局、じゃあ、そういうところと大山の保育園の取組がどれだけ違うのか普通は分かりませんし、その認証制度を受けている取組を町内外にどこまでアピールしているのか、恐らくほとんど知られていないと思うんですよ。それではやっぱり、だけん、認証を受けたって、あまり意味がないことだと私は思いますし、いずれにせよ、やはり、よそに比べて、要は智頭の森のようちえんほどかどうかはともかく、やっぱりそれくらい町内外から注目されて、そこに向かって移住も進むような取組にしていく必要があるんじゃないでしょうかね。町長、その現状の在り方も踏まえて、今後の方針としてどうでしょうか、移住定住策として。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

恐らく質問の大部分は教育委員会が答えるべきものというふうに考えておりますが、そういう魅力的なものを目的に、移住定住される方もあるものというふうに考えております。

○議員（14番 近藤 大介君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 近藤議員。

○議員（14番 近藤 大介君） 結果そうなるということではなくて、私としては、旧大山村エリアの人口を増やすために、少子化の対策として、そういう視点で保育園、あるいは小学校も特色あるものに町としてしていく必要があるんじゃないですかと、移住定

住策の観点から町長にお尋ねしてるんですけど、どうでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

近藤議員言われるみたいに、例えば保育園も施設型の保育じゃなくて、もう本当に森のようちえんのような形で、施設をあまり利用しない形の保育ぐらいとがってくれば、もう少し域外から通ってくる方というのはあるのではないかというふうには考えております。

また、小学校の話もありましたけれども、学校も特色を出していくことによって、移住定住につながるような、その学校を目指してくる方はあると思っています。そのときに、教育委員会は自然環境という話をされます。それも大事だと思っておりますが、県内見ますと、自然環境豊かなところたくさんありますので、特色化をしていこうと思ったときには少し難しい面もあるのかなというふうには思います。いい教育ができるといいますけれども、移住定住につながるような特色化というのは少しハードルが高いのかなというふうに感じているところであります。

昨日も、大山町のPRをしてはどうかという話の中に、大体3つだと。子育て支援策と英語教育とアウトドア事業が何かとがらせられるんじゃないかというお話がありました。私も同じ考えでありまして、そのうちの例えば小学校でいえば、保育園も入れてですけれども、英語教育をさらにとがらせるというようなところは、学校の特色化としては魅力的に映る部分はあると思っています。それによって、町外からその教育を目指してたくさん来られるというような状況はつくり出すことができる可能性はあるのではないかというふうに認識をしております。

○議員（14番 近藤 大介君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 近藤議員。

○議員（14番 近藤 大介君） 冒頭に言いましたけども、やはりこのまま旧大山村エリアの人口減少が進み、エリアの担い手が少なくなっていくと、恐らく、このままの状態が続けば、もう10年以内には保育園の廃園は非常に現実的なものになるでしょうし、そうなると、小学校の維持も極めて難しくなると思います。そうなると、ますます人が住まないエリアになっていきますが、大山観光のお膝元であり、様々な特徴のあるこのエリアが本当の過疎として寂れていくことは、大山観光に極めてマイナスの影響を及ぼすのではないかと考えています。そのことは、町のみならず、鳥取県西部の経済にやはり大きく影響することだと思います。やはりそういうことを考えると、今からこのエリアのことをしっかりと守っていくことが、逆に言えば、町や圏域の経済発展につながっていくと私は思っております。

できるところからというところで、まずは町営住宅、今在家の住宅もさっき言ったように、もう築40年と、古くなってきております。もう少し新しい町営住宅の整備を本

気で、子育て世帯向けの住宅を検討してもいいのではないか。あわせて、そればかりでなく、集落内の条件のいい空き家を町が買い取るなり、借り上げるなりして、改修して、町営住宅として利活用するといったことも検討すべきではないかと思いますが、どうでしょう、町長、この辺り、取り組んでみられませんか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

近藤議員おっしゃいますように、町営住宅だとか賃貸住宅の整備というものは大事な視点だというふうに考えております。一方で、子育て世帯向けのPFI住宅、今、町営住宅を民間資金、民間ノウハウを活用した形で、今、大山地区に建設をしているところでありますけれども、このPFI住宅の議論の中でも、近藤議員からの御提案で、大山地区だけじゃなくて、人口減少が進んでいる中山地区で造りなさいと。名和地区、中山地区でも検討をするようにということで、再三提案いただいておりますので、まずは近藤議員から提案をいただいた中山地区、名和地区での建設等に検討を進めているところでありますので、今のニーズをしっかりと捉えた上で、今後こういった地域にこういった町営住宅が必要なのかというところを見極めながら、整備は進めていきたいというふうに考えております。

○議員（14番 近藤 大介君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 近藤議員。

○議員（14番 近藤 大介君） 中山にも名和にも当然必要ですし、同じように、大山村エリアもせっぱ詰まった状況であると思いますので、それらは同時並行で検討されるべきだと思いますが、関連も多少していきます。次の質問に移りたいと思います。

空き家の利活用についてということで、再度町長にお尋ねをいたします。

1点目、本町の移住定住施策の現状と課題を説明してください。

2点目、本町への移住を希望する人は増えていますか。それから、移住希望者のニーズにしっかり対応できていますか。

3点目、本町内の空き家の数はどれくらいありますか。そのうち、賃貸や売買が可能な物件はどれくらいありますか。

4点目、物件化されていない空き家がたくさんあると感じておりますが、利活用を進めるための施策は十分に取られていますか。さらに進めていくべきではありませんかということで、答弁をお願いいたします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 近藤議員の2問目の質問にお答えをいたします。

空き家の利活用についてということで、4点御質問をいただいております。

まず、1点目の移住定住施策の現状と課題のお尋ねですけれども、まず、本町の移住

定住施策に関しましては、移住相談窓口の設置、住宅を新築する際の補助制度、空き家バンクに登録した物件を修繕する費用の補助などがございます。課題といたしましては、賃貸住宅が少ないということが上げられます。

2点目の、本町への移住を希望する人は増えているか、移住希望者のニーズにしっかり対応できているかというお尋ねですけれども、移住の相談件数は減少傾向でありまして、賃貸住宅を希望する移住者へのニーズには対応し切れていないというのが現状でございます。

次に、3点目の御質問ですが、今、大山町内の空き家の数はどれくらいか。そのうち、賃貸や売買が可能な物件はどれくらいあるかというお尋ねですけれども、大山町の空き家の数は、令和5年度から6年度にかけて行いました全数調査によりますと、509件となっております。このうち、賃貸や売買が可能な物件は、空き家バンクに登録しているもので把握をしておりますが、約30件でございます。

4点目の、物件化されていない空き家はたくさんあると感じているが、利活用を進めるための施策は十分に取組まれているか。さらに進めていくべきではないかというお尋ねですけれども、利活用を進めるための施策は、固定資産の所有者に向けたチラシや広報だいせんによる啓発、また、空き家相談会の実施、空き家の修繕や活用のための補助金制度による活用推進の取組を行っているところでございます。引き続き、空き家対策の取組を行ってまいりたいと思います。

以上で答弁いたします。

○議員（14番 近藤 大介君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 近藤議員。

○議員（14番 近藤 大介君） まず、先日は加藤議員も質問しておられましたけれども、大山町内の空き家が509件あると。しかもこれは、今後ますます増えていくことが予想されます。その上で、空き家バンクに登録があるものは30件しかないということで、利活用ということの観点では、空き家対策は大山町ではあまり進んでいないと評価せざるを得ないと私は思っています。

その上で、再度町長にお尋ねしていきますけれども、そもそも大山町に住もうという人が増えていかないと我々としては困るんですけれども、近頃移住の相談件数が減少傾向だということは、これはどうしてなのでしょうかね、どういう背景があるのでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 詳細な背景につきましては、担当からお答えをさせていただきます。

○まちづくり課長（深田 智子君） 議長、まちづくり課長。

○議長（吉原美智恵君） 深田まちづくり課長。

○まちづくり課長（深田 智子君） 移住の相談件数が減少傾向ということですが、

人口全体が、日本の、減っておりますので、そういったことで、移住相談件数、移住を希望される方も減っているのではないかと考えております。

○議員（14番 近藤 大介君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 近藤議員。

○議員（14番 近藤 大介君） 直近の数字は把握しておりませんが、一方では、田舎暮らしなど、都市部から農村等への、地方への移住を希望される人、以前に比べればそれなりに増えてるんじゃないかと思うんですけれども、全国的な流れでも地方移住は減ってきてるんでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 分かれば担当からお答えをいたします。

○まちづくり課長（深田 智子君） 議長、まちづくり課長。

○議長（吉原美智恵君） 深田まちづくり課長。

○まちづくり課長（深田 智子君） 全国的なケース、全国的な傾向は把握しております。

○議員（14番 近藤 大介君） はい。

○議長（吉原美智恵君） 近藤議員。

○議員（14番 近藤 大介君） コロナ禍のときほどには地方移住熱は盛んではないだろうとは思っておりますが、そうであったとしても、やはり一定数、都市部から地方への移住のニーズはあるという中で、その中で、仮に全国的なニーズが少なくなってきたとしても、大山町はその中で選ばれる地域でなければならないと思いますが、そういったお気持ちはないのでしょうか。そういう全国的な傾向なりを見ておられないまま、人口が減るから移住者の希望が少なくなっているんだというのは非常に後ろ向きなようにも受け取られますが、積極的に都市部からの移住定住を促していくお考えはないのでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

これまでもこれからも移住施策に関してはしっかり取り組んでいきたいと思っておりますし、大山町に移住を希望される方へのフォロー、サポート、相談体制もしっかりつくっていききたいというふうに考えております。

○議員（14番 近藤 大介君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 近藤議員。

○議員（14番 近藤 大介君） 近年、子育て世帯に向けた非常に手厚い経済的負担軽減策で、そういった施策によって、米子なりからの移住、一定の成果はあっていると思いますが、町全体で見れば、ただ、やはり大山口周辺であったり、一部のエリアにそうい

った移住は偏っていて、多くの議員が指摘しているように、農村集落をはじめとする既存の集落、自治会には、その効果はあまりない、あっても非常に限定的だという側面があるかと思います。

そうじゃないですか、町長。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

過去にも同じようなところで議論をしておりますが、町としては、町全体で人口減少をいかに緩やかにして、人口規模を維持できるのかというところを目指して、各政策に取り組んでいるところでありますし、集落、自治会によっては若い人が増えている、人口が増えているというところもあると思いますし、そうじゃない集落、自治会もあると思っています。それは、それぞれの自治会、集落の取組によるところもあると思いますので、引き続き集落、自治会の取組に寄り添った形で、集落、自治会に若い人が住んでもらえるような取組をしていきたいというふうに考えております。

○議員（14番 近藤 大介君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 近藤議員。

○議員（14番 近藤 大介君） 集落、自治会に寄り添ってと言われますけれども、非常に担い手が少なくなっている中で、集落、自治会の中で、我が集落の定住対策に集落、自治会として主体的に取り組んでいける集落が大山町内に一体幾つあるんでしょうか。私は極めて少ないと思っています。やはり行政なりがもっと積極的にそこに関わることでないと、既存の集落で人口が増えることはなかなか難しいと思いますが、どうですか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

まず、行政としては、町全体の取組をしっかりとやっていくということが大前提だというふうに思っております。その上で、約160ある集落、自治会の一つ一つの個別の課題、状況に行政で対応していくというのは難しいということが合併後の大山町ですってと言われ続けていて、その間、行政ではできないこと、かつ集落でもなかなか単独ではできないことをカバーする組織、団体として、地域自主組織が今、町内で10地区それぞれに立ち上がっているというところであります。集落、自治会でなかなか取組ができない、行政としても一つ一つの集落に対してそういった手当てができないところは、地域自主組織に力を発揮していただきたいというふうに考えております。

○議員（14番 近藤 大介君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 近藤議員。

○議員（14番 近藤 大介君） 地域自主組織にそのような役割を求めるのであれば、やはり現状は人もお金も全く不足していると思いますし、そういうような役割があるんだ

よってという働きかけを行政からはほとんどできていないのではないかと考えています。

その上で、改めてお聞きするわけですが、竹口町長として、大山町の農村集落を守っていかなければならないというお気持ちはありますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

大山町の農村集落、あるいは中山間地域の集落を守っていく、そこで暮らしている方、また、農業等一次産業に従事をされている方の生活をしっかり支えていくという考えは、今までも取り組んできたところでありますし、これからもそういう考えを持って取組を進めていきたいというふうに考えております。

○議員（14番 近藤 大介君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 近藤議員。

○議員（14番 近藤 大介君） そういうお気持ちがあるのであれば、現状として、そのような施策は現実的にはほとんどできていないというふうに私は言わざるを得ないと思っております。やはり本当に実情に即した形で大山町の農村集落をしっかり守っていただきたいと思っておりますし、私は、この地域は、何度も言っていますが、日本海があって、大山があって、島根半島に沈む夕日の眺望など、非常に豊かな自然に恵まれたエリア、さらに、おいしい食材がたくさんあるということを我々町民は半ば当たり前のようには思っておりますけれども、全国的に考えても、そのような当たり前は当たり前じゃないと。なかなかこういうエリアはないと私は思っておりますし、ましてや世界を探しても、このような恵まれた地域はないのではないかと考えています。日本の国が今後インバウンドにますます力を入れていく上で、やはり私は、世界が憧れる日本の農村をこの大山町でもっと実現していくべきだと思います。世界が憧れる日本の農村、そういう取組をしていきませんか、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

近藤議員の熱い思いはよく分かりました。そこが議論の中心であれば、またぜひそういう通告で一般質問をしていただけたらと思っております。

○議員（14番 近藤 大介君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 近藤議員。

○議員（14番 近藤 大介君） そうあるためには、やはり農村集落が元気でないと駄目なんです。となると、増え続ける空き家をこのまま放置していいんですかと。今なら人が、少し手間とお金をかければ住める空き家も、このまま10年、20年放置してしまえば、何百万円もかけて解体せざるを得ないものになってしまうと。やっぱりそうならないように、行政としてこの問題にもっと積極的に取り組むべきじゃないでしょ

うか、町長。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

空き家の取組に関しましては、今定例会でも様々議論をしてきたところであります。今、町としては、空き家の利活用に向けた各種制度を整えていっているところでありますし、また、その制度の中でいろいろなアイデアや御提言があれば、ぜひお願いをしたいというふうに思っております。引き続き空き家の利活用等が進むような取組をしっかりとしていきたいというふうに考えております。

○議員（14番 近藤 大介君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 近藤議員。

○議員（14番 近藤 大介君） 県内で見ると、例えば南部町はなんぶ里山デザイン機構だったり、鹿野はいんしゅう鹿野まちづくり協議会ですか、このようなNPOとかが主体性を持って町内の地域の空き家対策に取り組んでいます。やはり大山町としても、集落だったり、自主組織だけではなくて、そのような組織を育成していきながら、町内の空き家対策に取り組んでいくべきだと思いますし、また、時間もないのでまとめて残り言ってしまうかと思いますが、特定空家になるような物件に関して助成する制度も充実してきていますけれども、また、新築の支援などもあります。町内の空き家を解体して、新たにそこで新築して定住を目指すような町民に対して、既に新築助成の助成はありますけれども、解体の加算の補助をつけて、空き家対策の一つの手段として、そのような制度も検討してみたらどうかと思いますが、この辺りどうでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（吉原美智恵君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

まず、空き家の解体と新築で、解体のほうにも補助を出したらいいじゃないかというお話がありましたが、基本的には今まで移住される方にしか新築の補助は対象じゃなかったところを、定住対策だというような位置づけから、町内の方が、町民が町内で家を建てても新築助成の対象にするということで、対象を広げてきたところであります。当然、新築をされる際に、元からある更地に建てる場合もあれば、解体をして建てる場合もあると思いますが、そういったものが促進されるように、まとめて新築に対して補助をしているところでありまして、解体に対する補助というところは今のところ考えていない部分であります。

また、行政以外の、あるいは自主組織以外のNPOだとかの育成が必要ではないかというお話がありました。確かに大事なことだというふうに思っております。特に行政の施策でいうと、すぐ育成という話になってくるんですが、最近の課題というのは、どんな分野でも育成ではなくて、それを主体的にやってくれる人の存在が圧倒的に少ないと

いうところだと思っています。いろいろアイデアなり、何かやるんだったら手伝うよという人は多いのかもしれませんが、それを、じゃあ、主体的に自分でリスクを負って動くという人が少ないのが現状でありますので、そういった方に大山町に入ってきてもらう、あるいは大山町の中でそういう動きができる人が立ち上がっていただく、そういうような環境づくりにも取り組んでいきたいというふうに思っております。

○議員（14番 近藤 大介君） 終わります。

---

○議長（吉原美智恵君） 以上で本日の日程は終了しました。

次回は9月25日に本会議を再開します。定刻、午前10時までに本議場に集合をしてください。

本日はこれで散会いたします。お疲れさまでした。

午前11時39分散会

---